

## 自己評価報告書

平成 23 年 4 月 25 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20390543

研究課題名（和文）「山口県遺伝看護卒後教育推進プロジェクト」構築に関する実践的研究

研究課題名（英文）A Project to promote postgraduate genetic nursing education in Yamaguchi Prefecture

研究代表者

辻野 久美子（TSUJINO KUMIKO）

山口大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：60269157

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：遺伝看護、卒後教育、山口県

## 1. 研究計画の概要

ポストゲノム時代を迎え、遺伝医療はますます重要になっているが、現在我が国の看護基礎教育において、「遺伝看護学」は独立してその地位を確立するまでには至っていない。したがって、学生時代に遺伝看護を学んだ看護職者は限られており、我が国の遺伝看護発展の過渡期において、卒後教育を充実させる意義は大きいと考える。このような状況を受けて、本研究では申請者らが暮らす山口県において「遺伝看護の卒後教育」を推進し、一人でも多くの看護職者が、患者（クライアント）・家族の求める最良の看護ケアを提供できるように、遺伝看護に関する教育的支援を行う。具体的には、山口県の遺伝看護教育の実態および遺伝看護の実践状況について調査し、遺伝看護における教育的支援を実践するための「遺伝看護卒後教育推進プロジェクト」を構築する実践的研究である。プロジェクトは2つの内容で構成され、研究開始初年度から4年間を第一次プロジェクトと位置づけ、その間に「遺伝看護教育セミナー」および国際遺伝看護シンポジウム等を開催する。最終年度の第二プロジェクトにおいては研究を総括し、補助金による研究期間終了後も、遺伝看護の卒後教育を継続実施できるように、その方策について検討し、実践する。

## 2. 研究の進捗状況

(1)2011年度までは第一次プロジェクト実施年度である。山口県における遺伝看護の実践状況に関する調査は一部終了し、残りについては、継続進行中である。看護師、保健師、助産師の各専門職者を対象にフォーカスグループインタビューを実施し、現在

その内容について分析している（ペレルソンの内容分析法を使用）。

(2)「山口県遺伝看護卒後教育推進プロジェクト」主催による遺伝看護教育セミナーを3回実施し、そのうちの第一回目は、看護の国際学会（STTI）日本支部と共同で開催した。

①Dr. Heather Skirton (Plymouth 大学教授)、“Genetics and nursing: experiences in the UK and Europe”、2009年4月19日、宇部市、参加者220名

②柗中智恵子氏（熊本大学医学部保健学科助教）「遺伝看護の現状；神経疾患、家族性アミロイドポリニューロパチー」、2009年5月25日、宇部市、参加者100名

③村上好恵 准教授（首都大学東京 健康福祉学部看護学科）「家族性腫瘍の患者およびご家族への対応」、2010年6月21日、宇部市、参加者40名

(3)遺伝性疾患（染色体異常）をもつ子どもの母親による特別講演を3回実施した。（2008年6月2日；参加者85名、2009年4月27日；参加者85名、2010年5月31日；参加者40名、宇部市）

(4)看護学生を含む大学生600名を対象に出生前診断に対する意識について、アンケート調査を実施した。調査結果は、第30回日本看護科学学会で発表した（2010年12月、

札幌市)。

- (5)遺伝看護の先進国イギリスで開催された“Genetics Education workshop”に9日間参加し、遺伝看護教育に対する理解を深め、教育上の工夫についても大いに示唆を得た。一方で、申請者らも日本における遺伝看護教育、遺伝看護の実践状況について報告し、理解を求めた。受講生は6名(邦人3名、英国人1名、ポルトガル人1名、オーストラリア人1名)(2009年8月)。

### 3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。  
(理由) 遺伝看護教育セミナー、家族による特別講演などを毎年継続して開催することにより、正しい知識、新しい知識の伝達および遺伝看護の啓発に、おおむね貢献できている。

### 4. 今後の研究の推進方策

- (1)看護職者を対象にしたフォーカスグループインタビューの結果を分析し、その成果に基づいたアンケート調査を、全県的に実施する。  
(2)遺伝看護教育ワークショップを、宇部市で開催する(“Ethical issues in genetics in nursing and midwifery practice”、講師: Deakin University 看護学部教授 Megan-Jane Johnstone 氏、岩手県立大学看護学部部長安藤広子氏、2011年10月15日予定)。  
(3)遺伝看護教育セミナー(2011年5月)、家族による特別講演(2011年5月)の継続実施

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計18件)

- ①辻野久美子、近年の看護師・保健師国家試験における遺伝関連問題出題状況と課題、日本遺伝看護学会誌、8巻1・2号、21-23、2010年、査読有  
②沓脱小枝子、辻野久美子、村上京子、他4名、酵素補充療法を受けたムコ多糖症Ⅱ型患児の看護-経過報告と今後に向けての課題-、日本遺伝看護学会誌、8巻1・2号、1-6、2010年、査読有  
③H. Skirton, K. Murakami, K. Tsujino, S. Kutsunugi, S. Turale, Genetic competence of midwives in the UK and

Japan, Nursing and Health Sciences, Volume12 Issue3, 292-303, 2010, 査読有

- ④Turale Sue, Nursing scholarship in Japan: development, facilitators, and barriers, Nursing and Health Sciences, 11(2), 166-173, 2009, 査読有  
⑤K. Tsujino, Challenges and prospects for genetic nursing education in Japan. Nursing and Health Science, 11(1), 102-102, 2008, 査読有

[学会発表](計29件)

- ①辻野久美子、出生前診断に対する大学生の意識、第30回日本看護科学学会学術集会、2010年12月4日、札幌コンベンションセンター  
②村上京子、遺伝医療における周産期・小児領域看護職の関わりとケアに伴う困難感、第9回日本遺伝看護学会学術集会、2010年10月3日、慶応義塾大学信濃町キャンパス  
③K. Tsujino, Assessment of Genetic Content in Japan's National Board Exams for Registered Nurses and Public Health Nurses, 2004-2008, 22<sup>nd</sup> Annual ISONG Conference, 2009年10月18日, The Catamaran Resort, San Diego, California USA  
④S. Kutsunugi, Nursing practice for a child with Mucopolysaccharidosis in enzyme replacement therapy-Case Report-, 22<sup>nd</sup> Annual ISONG Conference, 2009年10月18日, The Catamaran Resort, San Diego, California USA

- ⑤K. Tsujino, Creation and utilization of a “child-care notebook” for supporting children with congenital anomaly, 21<sup>st</sup> Annual ISONG Conference, 2008年11月9日, Sheraton Society Hill, Philadelphia, PA USA

- ⑥K. Murakami, Woman's Knowledge and Expectation of the Routine Ultrasound Screening in Japan, 21<sup>st</sup> Annual ISONG Conference, 2008年11月9日, Sheraton Society Hill, Philadelphia, PA USA

[図書](計0件)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

[その他]

なし